

障害者の方が仕事につけるように、暮らしやすいように行政や企業が動いていることがわかりました。けれど、それが企業などの団体ではなく個人にふくむとき、企業という責任のある立場ではなくふくむときに差別的な心ない言葉を向けてしまうと悪いと思います。個人々は本質的に自分勝手な自分の生きやすい社会を望んでいるんだと思います。でもそうするとふくむときに障害者の方が1人ついて生きにくいと感じてしまうから行政などが動くだけでなく個人一人一人の意識変化をうながしていくことが大切なのだと思います。

相模原で障害者を持った方を惨殺するという事件がありました。私達は、その事件をただひどいことをした、可哀想だと言うだけの人ではなくてだと思っています。しかし、私達は何故そのような考えを持った人が出てきてしまったかを考えていかなければならないと思いました。普段、障害者を持った方と接触する際に、少し見下して接してしまっていることがあるような気がします。そのような考えの途長線の上にあの相模原の事件があると思うので他事だと考えるのは間違っていると思います。

今までは企業の方の話を聞く回が多かったのですが、行政側の方の話を聞いて勉強になりました。企業の方とは違う、雇用側の難しさを聞いてよかったです。衝動だったのはグループホームの設立反対運動をする人がいるということでした。じつは行政側をする人がいるのだなあと感じました。障害者に対する差別やバリエーションも明らかにしている実態を初めて知りました。単に施設を作って障害者を一ヶ所に集めてしまうことで、障害者との関わりが少なく、危険なことをするかもしれない人だとして勝手にイメージだけで決めつけてしまうのかなとも思いました。

障害者の「が」の字をどうあるのかという問題は人それぞれ異なる考え方があり、ために解決しないのではないかと思う。そのために、障害のある人、という表現が適切だと思う。江原さんは、障害と人を切り離さないとあつていたが、私はそれは賛成できないと思った。背が高い人や低い人がいるように障害をもつ人がいる、というように考えや切り離す必要はないと思う。私の家の近所の区民センターに、障害者の方々が食べ物や品を提供している場があり、そこはお茶一杯とおにぎり17700円くらいで、これはとても高い金額だと思うのだから、この高い値段設定についてどう思われますか？

障害者の漢字表記の話を聞いた時、以前に「障害者に気を使ってひらがなにしたり文字を変えることは障害者にとって何のメリットもなく、かえって差別を感じるのでないか」という意見をテレビで聞いたのを思い出し、配慮と差別は紙一重なのだと改めて思い返した。特に配慮をあるということとは、人々の心のどこかに「この人は障害者なのだ」というマイナスの意識があるのであり、健常者の理解はすぐに得られたとしても、和解となると難しくなってしまう現状を感じた。

前段の企業の人々の話はまた違った視点での話だった。障害者雇用に対する新解釈を掲げることができた。行政と民間企業、間を発生する雇用問題についても、今回については、世論として、障害者にもマイナスな偏見（犯罪を起すかもしれない、何をするか予測できない）があるからという、雇用問題の解決には、こういう根本的な所を変えていく必要があると思った。変えていくにはやはり、障害者への交流などの機会を増やし、こういう偏見を払拭する必要がある。話聞いて思った。

今回の企業とは違って、横浜市障害福祉局といった行政側からどういった視点から障害者のための雇用促進へと取り組んでいるかを理解することができた。企業に対してはいろいろなことを国の議員や行政に求めようという事態が存在しているなどのお話や、聞いて非常に良かった。改めて、私たち社会の中で現実には障害を持つ方がどういった困難をもっているのかをいかなければならぬのかというのには、市民や国民の支持があることが何よりという話など思い返す。

横浜市では障害者の働きやすい環境を作るために、さまざまな活動をしていることが分かりました。江原さんの「障害者」という呼び名や、障害と人を切り離す、また、障害者差別に対する熱い考えや本音を聞くことができ、貴重なご講演でした。本来雇用というものは、行政だけが率先してやらなければならないものではないということは私も共感しました。障害者に対して、私たちが無意識に差別のきっかけとなるような気持ちや当たり前だと思ってしまうことがあるのではないかと、私たち自身も自分の心とよく向き合わなければならないなと思うようなまた、障害とは何なのか、根本的なところから考えようと思うようなご講演でした。

障害者差別の実態について大変興味深かったです。私の自宅の近くにも
 ガル・アホーム設立の反対運動があり、写真のようなプラカードもたまに
 結局設立は断念することになったが、住民側の言い分には疑問が残るもの
 でした。江原さんのおっしゃる通り、住民の自治が整備されていない地であり、
 それらの不満の矛先はけついている気がしました。
 障害者差別がなくなるためにも、様々な対策が必要であると感じました。

障害者、障がい者、障害者と一つの物事の書き方であったり、呼び方であったりなど
 我々が私生活で無意識に行っている行為は、時に心を傷つけてしまうこと
 があるため、やはり意識的に言葉を使うべきだと思いました。大切な事は
 一人一人の気持ちを考えて行動を起こすことであると思いますが、やはり企業側も
 人材雇用には力を入れているため、そこにすでに差別があります。その差別を
 再認識すること、違いを認めることで新たな考えが浮かびあがるはずだと思
 います。

この講義を受講するようになって初めて、「障がい者」という表記を目にした。講義内容を「障害
 者」という表記だが、大多数の企業が「障がい者」を用いていた。「なるほど、当事者のことを慮っ
 て"害"という悪いイメージの漢字の使用を避けたいのだな」と納得していたが、本府福
 祉局の方の話で初めてこの表記に触れた。「害」を「がい」とすることで、障害者への支
 援の意識がありがたいになるのではないかと、当時の障害者たちの一部は考えているらしい。細
 かい名称への気遣いよりも、もっと具体的・物質的なサポートをしなければ意味はないのだ。「ふれ
 あい」時代は終わったのだと感じた。林田さんのお話、興味深かった。

そもそも障害者という概念をとっていいんだ、というような気持ちで言葉の中
 から大まかを感じました。質問にもあったように、人と違ったり、そのものを知らなかったり
 すると差別が生まれるのだと感じた。そこで、障害者について知る必要や関わり
 を持つことが大事だと思う。差別をする人間も、もし自分の息子が障害者だったら
 差別する気持ちは絶対に持たないはずだ。

今回は今までの企業と違って、市の方から障害者雇用についてお話を聞くことができ興味深かったです。市が率先して障害者の方を雇用し、企業の障害者雇用の率と質をあげる努力をしていることを知りました。グループホーム設立反対の看板を見て悲しくなりました。障害者の方への差別意識を市だけでなく私たちも無くす努力をしなければいけない、障害者の方も普通にいられる社会にならなければいけないと感じました。

多くの人が腕か1本しかありません。逆に腕が2本の人の中には、なることを障害と、うしろ、後向きというものでしかないので、そこをもっと理解するべきであると思った。人間、他人に対して自分から優越感、上っことを望むという特性を持っているので、しかるべきところにもある。

法定雇用率によて悪く言、てしまえば、強制的に企業に障害者を雇用してもらおうとしても、実際、達成できていない企業が多にあるのだから、雇用を改善していくのは難しいことだと感じた。その中でも、雇用率を達成するという数字だけの達成ではなく、企業と障害者の方との交流の場を整え、よりよい雇用を促進しようとする横浜市の取り組みが理解できた。私は将来、さいたま市で働くことに興味があるので、ぜひ、この講演を機にさいたま市の障害者雇用支援後についても知りたいと思った。

行政に関わる障害者雇用の話は初めてだったので非常にためになりました。ノーマライゼーションという企画はとても興味深かったです。しかし私は思うのですが、ノーマライゼーションーノーマル化運動ーという言葉と聞くと何がノーマルなのだと考えさせられます。ノーマルが健常者のことを指すのであれば、障害者を健常者化することがノーマライゼーションの目的なのではないか。私はそれは違うと思います。難しい問いです。